

11 三遠南信地域住民セッション 要旨

San-En-Nanshin Summit 2016 in Higashimikawa

■開会挨拶

原田代表世話人

みなさん、こんにちは、今日は寒い中、遠いところからお集まりいただきましてありがとうございます。



今回で三遠南信サミット住民セッションは 11 回の開催となります。これまでには住民セッションをどのような方法で進めていくのがいいか、当初から課題になっていました。これまでにいろいろと模索をしていく中で、まとまった組織を作っていくという話になり、2012 年 6 月 1 日に三遠南信住民ネットワーク協議会ができました。これで住民ネットワーク協議会として主催する住民セッションは 4 回目になりました。

これまでの 3 回につきましては、3 地域の様々な団体の活動がどのように展開されているのかを互いに知ることや、それをもとに団体どうしの連携やネットワークを強化していく機会とするために、住民セッションを開催してきたように思います。その形式で東三河、南信州、遠州の順で一巡して 2015 年度に再び東三河での開催となりました。

今回はかねてから話題になってきたサミット分科会において、私たちは住民団体代表として参加していますが、発言者個々の所属団体の立場から発言していました。そのことにもどかしさがあったり、分科会の中での議論に物足りなさを感じたりすることが共通する思いとなっていました。

実は今回は、住民ネットワーク協議会世話人会で事前に検討し、今回は住民セッションでまとめた内容を分科会で発言し、そ



うすることで分科会そのものにも新しい空気を入れることができるのでないかと考えが一致しました。

今日このあと、どの程度内容を詰めていくことができるかは実際に始めてみないとわかりませんが、有意義な住民セッションとしてゆきたいと思います。

■第 1 部 協議会事業中間報告

平川世話人

1. 世話人会の開催

協議会の円滑な運営を推進していくために、これまでに世話人会を 5 回開催しました。本年度中にあと 1 回開催予定となっています。

2. 活動のマッチングの場づくり



三遠南信地域の住民団体による連携活動を通した「連携」と「協働」を進め、地域資源の活用や継承、再発見するための研修事業を実施しました。開催地は各地域 1 ヶ所ずつとし、東三河は 2015 年 5 月 17 日(日)(受入)、南信州は 8 月 2 日(訪問)、遠州は 12 月 6 日(訪問)に実施し、計 3 回開催しました。

3. 連携プロジェクト推進に向けた取組

(1)祭り街道連携プロジェクト

伝統芸能などの「祭り」をコンセプトに、高速道路（東名、新東名など）や国道、県道などの街道をつなげて、「道の駅」「観光資源」をネットワーク化することやアンテナショップなどで PR していくための調査・研究を進めた結果、国土交通省浜松河川国道事務所から「三遠南信地域基礎資料収集業務」を受託しました。本年度の調査地域は遠州地域を対象としています。現在取りまとめ中です。

(2)地縁店展開プロジェクト

地域拠点構築のための「モノと地域」の情報発信事業として、公的な支援など事業費の確保に努力しながら、「地縁店」展開事業を実施しました。しかしながら、7月に入り地域拠点であった「遠江特鮮市場」（浜松市）が閉店し、地域拠点での情報発信等は終了することとなりました。

(3)アート街道プロジェクト

三遠南信地域の文化情報の発信と「アート街道プロジェクト」の一環として「志多ら全国ツアーアップの大地」公演の開催協力を行うとともに、公演会場で三遠南信地域のPRにも参加協力しました。（2015年5月29日に新城市にて開催・千秋楽）。

4. 会員相互の情報交流

三遠南信住民ネットワーク協議会総会や三遠南信サミット住民セッションなどを通じて、会員相互の情報交流の場を設けました。また、住民団体の事業に対して協議会が積極的に協力団体等となり、事業のPRや参加の呼びかけるために、公式ウェブサイト上で随時情報を発信しています。

5. 三遠南信サミット 2016 in 東三河住民セッションの開催

三遠南信地域連携ビジョン推進会議

(SENA) と連携し、第23回三遠南信サミット 2016 in 東三河の開催に併せて、住民セッションの企画、準備を行いました。また、サミットの分科会などに住民団体として協力しました。2015年度は、例年と異なり、2016年2月に開催されました。

6. 三遠南信住民ネットワーク協議会の財源確保の研究

活動資金の開発として、SENA 補助金事業に提案・申請し、活動費の助成を受けて事業を実施中です。国土交通省に対して「祭り街道」の連携事業を提案した結果、委託事業を受託することができました。

■第2部 全体討議

進行／原田代表世話人

1. 趣旨説明

今回の住民セッションでは、住民団体に直接関係があるプログラムにサミット分科会（「道」「技」「風土」「山・住」の4分科会）があります。今回のサミット分科会で住民団体代表8名が発言するにあたり、各分科会テーマに沿って、事前に議論し意見をまとめておくことになりました。

そこで、住民ネットワーク協議会では、三遠南信サミット当日までに議論する場を設けて、十分な時間をとて意見交換しその成果をまとめるために、本事業を2回にわたって企画いたしました。

その1回目は、2015年12月12日に東栄町体験交流館のき山学校において「住民セッション事前ワークショップ」として開催しました。その時に発言内容に関するキーワードなどを拾い出し、8名の発言者を選出しました。そして世話人会での再検討を加えて、2回目が本日のこの場となったわけです。ここではその仕上げとなる話し合いを行う段取りとなっています。

では、進め方ですが、「道」「技」「風土」「山・住」の4分科会で発言する各2名計8名がその話題に沿った内容を考えてきましたので、ここでみなさんに報告します。報告後、会場のみなさんから気がついたアイデアなどをコメントしていただきます。それを加えたものを最終的な発言内容として取りまとめて分科会に臨むということになります。

以上のような形式で第2部を進めていこうと思いますのでみなさんのご協力をお願いいたします。

2. 発言内容報告

「道」分科会

NPO 法人地域づくりネット 山内代表理事

【キーワード】

- ・サイクリングロード、サイクルツーリズム、トレイルランの都市部と中山間部の拠点づくり
- ・三遠南信基礎資料収集調査

浜名湖では日本風景街道ルートとしてサイクルツーリズムを進めており、自転車道の整備だけでなく、受入態勢などにも取り組んでいます。

2015年度には新東名高速道路の延伸に向け、国土交通省の社会実験で浜名湖サービスエリアの混雑が緩和されることが予想されることから、この点に着目しサービスエリアを多機能化させる仕組みづくりやゲートウェイ機能となることを期待して、ここから遊覧船と自転車を使って、一般道へ出て、浜名湖を船とサイクリングで楽しむ実証実験を実施しました。船、自転車、高速道路をうまく結びつけながら、浜名湖の風景・景観を楽しむための新たな動きを提



案します。

もう1つは、「三遠南信祭り街道」の地域を紹介していくことを道の駅等を利用していくことを考えています。地域のゲートウェイと見立てて、紹介していくための地域資源やコンテンツ、その方法を調査して提案します。

これら2つは、ともに1つの拠点として地域の中でどのように活かしていくのかを高速交通ネットワーク網と併せて考えるならば、より広域的な地域の連携が必要となります。

さらには、その拠点で観光客が情報を集めたり、またそこから観光客をどの方向に誘導させるかなどの仕組みづくりが重要になってくるでしょう。

道をどのように使うのか、そのための情報をどうやって発信していくのかを踏まえて2015年度については、遠州地域を調査しています。

今後は、奥三河などの東三河地域や南信州地域にも調査範囲を広げていくことを想定しています。山、川、海がつながり楽しめる地域にしていくために調査研究を進めなければと思っています。

鞍掛山麓千枚田保存会 小山会長

【キーワード】

- ・サービスエリア、パーキングエリア、道の駅を活用した地域観光拠点づくり

私たちは道路を使って地域をどう活性化させるかをいろいろと模索しました。いまは大変な異変が起こると思います。特に奥三河地域です。今回の新東名高速道路が開通して、新城市内、豊川周辺にも異変が起こっています。



私が見ている限り、大阪や三重県からの来訪者は、現在、浜松いなさインターチェンジか三遠南信自動車道・鳳来峡インターチェンジを利用して四谷の千枚田やうめの湯、とうえい温泉、茶臼山高原などの奥三河の観光地を周遊する傾向にあるようです。四谷の千枚田を事例にしても、観光客はじわじわと増え、2014年の1年間を見ても約5,000人増の25,000人の訪問者がありました。高規格道路開通の効果が出たと考えられます。

ですからこの効果をどのように活かすかです。これまで縮こまっていた奥三河を活性化させるには我々の力が必要となります。

例えば、自転車を使った地域資源をめぐるサイクリルツーリズムはどうでしょうか。四谷の千枚田では、グループになって自転車で訪れる観光客をよく見かけるようになりました。この自転車による周遊で奥三河に好印象をもってもらえば、その情報はどんどん広がっていくことと思われます。そのためにはやはり拠点づくりが必要です。

新城市鳳来地区には「ふれあいパーク」という利用頻度の低い公共施設があります。ここを拠点にして、車を駐車してもらいそこから自転車で周遊してもらうのです。また道の駅などの各地施設ともタイアップして拠点を作っていく方法を考えるのも必要ではないでしょうか。

【フロアからの主なアイデアなど】

- ・自転車用ラック（駐輪機）の設置を促進し、三遠南信地域全体に拡大。
- ・新城インターチェンジや道の駅周辺の道路混雑が予想されるので渋滞情報発信のしくみづくりが必要。
- ・新城市にある旧サイクリングターミナルなどの遊休施設の再活用。
- ・ツールド新城の広域的なコース拡大。

「技」分科会

NPO 法人森づくりフォーラム

原田副代表理事

【キーワード】

- ・自然エネルギーの地産地消と雇用創出の取り組み提案

三遠南信の中山間地域は、再生可能（自然）エネルギーを生産、消費することに適しているところで、その体制を整えていくことで地域の活性化につながる可能性があることを提案したいと思います。例えば2年ほど前に「里山資本主義」という書籍がベストセラーになりました。先行事例に取り上げられたそれらの地域と三遠南信の中山間地域は共通の要素を持っていることがヒントになると思います。利用できるものとしては太陽光、小水力、風力、バイオマスなどいろいろあります。これらを地域の活性化につなげるポイントはお金を外部に流出させないことが1つのポイントと言われています。その地域に住んでいる人たち自身が発電事業を起こし、それを使っていく仕組みを地域住民自身で作る必要があります。つまりエネルギーの地産地消ということになります。



徳島県佐那河内村は、人口約2,500人、税収は1億2,000万円です。村で消費している電力は約8億円だそうです。この8億円を電力会社に支払ったりして外部に流出させずに、地域内循環させることを目標にしたことがニュースになりました。

そのような考え方をもって地産地消を進めていくとよいのではないですか。

もう1つのポイントは、できるだけ小規模で作っていくことです。広くても旧町村単位程度が理想です。さらにバイオマス（特

に熱エネルギー）の場合は、集落単位程度の範囲で行っていくことがいいでしょう。

形態としては、住民自身が主役となっていくわけですが、株式会社やNPOでもいいです。それを行政はサポートし、都市住民や企業は協力するという連携体制を三遠南信のいくつかの地域で作るのがいいのではないかでしょうか。

そういうことが実行できれば結果として、地域に雇用が生まれるのではないかでしょうか。

天龍村柚餅子生産者組合 関組合長

【キーワード】

- ・生きるための生活の技（知恵）を身に着けるための取り組み
- ・祭り街道弁当

私たちの住んでいるところは3県の境、佐久間ダムの上流で800余年の歴史ある隠れ里です。武士の携帯食であった柚餅子づくりを43年間、三遠南信の交流も同時のお世話になって参りました。



店も自動販売機のなく中性の生活は地産地消そのものです。新しい産業、コンピュータの時代ではありますが、豊かな自然の中に先人の残してくれた暮らしの知恵は生きる力が詰まっていることも伝えてゆきたいと思います。

急峻な地域に生きているイノシシやシカだけではなく私たち人間にも病気やケガを治す力を持っていること、それを補うものが自然の中に草や木、竹などにあり、その価値が大きいことも見直してほしいと思います。

祭りで神様にお供えする物も時期に穫れる物、それが身体によいとされる物なのです。私たち南信州交流の輪ではこの本物の

食材と物語を祭り街道弁当として南信州のブランドにしたいと思って取り組んでいます。祭りと同時に食文化も郷土食として伝承していくべきだとどうか皆様も一緒に考えていただきたいのです。

祭り街道弁当のイベント時には浜松や豊橋から多くの皆様がおいで下さりありがとうございました。

【フロアからの主なアイデアなど】

- ・他の地域では小水力利用が進んでいるが三遠南信地域はあまり活発ではないようなので利用促進を促すことが必要。
- ・地域の祭りの時に食べられる祭り弁当があるとよい。
- ・草木を使った器を弁当に採用し付加価値をつける。

「風土」分科会

無形民俗保護団体連絡会事務局 上嶋次長

【キーワード】

- ・民俗芸能保存団体のネットワークづくり

三遠南信はいわゞと知れた日本の中世の民俗芸能がそのまま残っているところです。全国に類を見ない国や県、市町村が指定した無形民俗文化財がたくさんあります。



この根底にあるのは伊那谷の文化で、東三河、遠州、南信州の3つのエリアで独自性を持ったものに変化して存続していますが、現状を見るとどの地域でも多くの問題を抱えております。つまり中山間地域の少子高齢化と限界集落化の問題が民俗芸能の継承を危機的な状態にさせている現実があるのです。この地域の民俗芸能は、日本遺産や世界遺産として十分に価値あるもので、

それを支える地域基盤が揺らいでいるところが増えています。

そこで今回、三遠南信の民俗芸能の連絡協議会が立ち上がれることを提案したいと思います。浜松市は市町村合併して市内に国指定重要無形文化財を持つ地域になりました。こうしたことによって民俗芸能の保存と継承の必要性が再認識され、19団体によって無形文化財保護団体連絡会が設立されました。年に2回会報を発行したり、情報交換などの地域間交流などを行っています。2015年には南信州にも同様の団体が設立されました。

あとは東三河でも保存団体の組織化を進め、3つの地域の組織が足並みをそろえて三遠南信の民俗芸能の保存と継承活動を行うことが必要です。そうして連携することで日本遺産や世界遺産への登録申請を目指していくことができるのではないかでしょうか。

愛知大学総合郷土研究所 平川研究員

【キーワード】

- ・ジオパーク
- ・圏域における郷土の景観づくり

三遠南信地域は、豊川・天竜川流域圏や中央構造線（大断層帯）など地理的特徴を持ち、豊富な自然資源（地形や地質）によって美しい景観が形成され、また、民俗芸能などが数多く伝承されるなど、共通の地域文化圏となっています。それらを保全し、活用する取り組みとして、1つめに地質遺産（ジオサイト）に着目した「ジオパーク」構想があり、日本各地で推進されています。現在、三遠南信地域でも南信州が認定され、東三河が準会員（申請準備中）です。

2つめに、2014年度に文化庁が創設した

「日本遺産」です。歴史的特色を文化財と結びつけた取り組みで、遠州では広域行政の一環として連携した取り組みが検討され始めたようです。

どちらも自然資源や文化財を保全、保護するだけでなく、地域資源どうしを関連させ、物語性（ストーリー）を持たせた上で、観光や教育などに活用することで地域の活性化を図ることが目的となっており、行政、経済界、住民団体が一体となった体制をつくり、取り組むことができればと思います。

【フロアからの主なアイデアなど】

- ・小学校が文化の拠点になっている設楽町田峯地区の歌舞伎を見物して、伝統芸能の情報をもっと発信する仕組みが必要。
- ・中央構造線の重要さをPRすることが必要。

「山・住」合同分科会

NPO法人てほへ 伊藤理事長

【キーワード】

- ・将来のUターン者につながる地域の教育



東栄町をはじめ三遠南信地域の中山間地域は、人口減少が続いている。人口を維持するためにはI・Uターン者を受け入れて人口を増やすことが最も重要な課題です。中山間地域に位置する東栄町での居住は、就労しての定住には限界がありますが、近年、新東名高速道路や三遠南信自動車道が開通したことでのアクセスがよくなったりことにより通勤範囲は拡大されたと思います。ベッドタウンとしての機能も期待されて、単身者用の公営住宅などが建設されるなど移住者の受け入れ体制もできつつあります。



東栄町へのIターン者として「和太鼓集

「団志多ら」の事例があります。そして、志多らを支援する住民や友の会が設立した「NPO てほへ」で現在活動しているスタッフ4名はIターン者です。また、2015年にオープンした東栄町体験交流館のき山学校内にある「Café のつきい」のスタッフは「東栄町空き家」に応募した若いIターン者2名のお母さんたちもパートとして勤めています。

このように東栄町としてもIターン者を受け入れたという実績があり、I・Uターン者との相互理解ができるような環境づくりを地元住民が作ることも大切なことです。

そして東栄町は3年ほどの間に9軒の空き家住宅の入居者を募集しました。その条件として地域の行事に参加することなどを前提に受け入れました。そういうことによつて人口減少は、微減から横ばいに変わりつつあります。

これから私たちがやっていきたいことは子どもが都会に出て行くだけでなく、地元の良さを理解してもらって学校を卒業してUターン者としてまた帰ってくる教育や地域づくりを実践していきたいと考えています。

和合むら 吉田世話人

【キーワード】

- ・地域（地元）による移住者受け入れのしくみづくりと仲介者養成

私の和合むらという団体は地域の特産品や伝統食を企画、製造、販売しています。私はIターンで阿南町和合地区に移住して17年が経ちます。17年前というと現在とはかなり状況が変わってきています。その当時は、田舎に移り住んでくる人はどんな変わった

人なのかと思われていました。今のように



温かい目で地域に受け入れられたわけではないという印象もあります。17年間の中で、いろんな人が、私が住んでいる和合地区に移り住んできて、そしてまた出て行ってしまった人、住み続けている人もいます。

私は和合地区に移り住んで、いいことばかりがあったわけではありません。いろんなことがありました。どうしようもないときは、隣村のみなさんに精神的に助けてもらったこともあります。お世話になりました。

そのほか地域内にも外にも支えてくださる人たちがいるからこそ、一度も和合地区を離れたい、出たいと思ったことはありませんでした。

特産品を作っていく事業は、やめるきっかけがないし、ほそぼそとでも続けてきています。それが私の1番の励みになっています。

各家々では、失われつつあるこれまで伝承されてきた百姓の1年の暮らしがあって、その中で食文化があり、地域のお祭りなどが残っていて、それらすべてを切り離して考えることはできません。そういうことの尊さを次につなげていきたいという思いがあります。

自分にできることは限られていますが、伝統食に基づく特産品を販売し広めていくことを細々ながら続けていくことでその道の先輩方に巡り逢い、今後も魅力ある三遠南信の文化をつなげて情報を発信していく



たいと思っています。

【フロアからの主なアイデアなど】

- ・地元の良さなどを学校行事の中で教えることの必要。
- ・地元のヒトを訪問し、暮らしを見せる観光ツアーなどを企画。

3.まとめ

NPO 三遠南信アミ 水島理事

発言者の方の報告
内容については、フロアから出されたアイデアや気づきの部分について以下の通り、まとめたいと思います。



「道」分科会

- ・各拠点で、広域情報の共有化と発信方法の検討が必要である。
- ・遊休施設の再利用方法を考える。

「技」分科会

- ・自然と共に暮らしてきた生きる知恵の価値観をアピールする。
- ・自給自足生活による人間の強さを活かした技も重要である。

「風土」分科会

- ・すばらしい歴史文化や民俗芸能などを持ち、すべてが結びついていることを共通認識する。

「山・住」分科会

- ・移住後の世話役や仲介者の出会いの場が必要である。
- ・個人や団体の興味に合わせた観光プランづくりとコーディネータ役を養成する。
- ・場所だけでなく、人やソフトも地域資源とする。

■閉会挨拶

天龍村柚餅子生産者組合 関組合長

本日のこの住民セッションでは東三河の皆様が工夫され語りやすい、聞きやすいよい企画にしてくださり本当によかったです。次回は南信州ということですが私たちこれから考えるところでございます。



今日もいろいろご発言がありましたようになたくさんあると思います。この三遠南信にはどこにもない日本の原風景とも言われる歴史や文化、民俗芸能があり大切なものとして守り伝えていきたいのです。

私たちも三遠南信のこのエリアの皆様の交流のおかげで支えられてやってくることができました。本当に感謝でございます。

次回は若い協力隊の力も借りて良い住民セッションができますように企画し、皆様においていただき祭り街道弁当をお昼に用意してお待ち致すようにしたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

本日はご苦労様でございました。東三河皆様、本当にありがとうございました。

